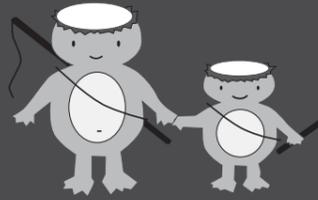


里川表紙プレイバック 里川全50号一挙掲載！！

新河岸川流域しんぶん「里川」は、平成9年10月の創刊準備号発行依頼、本号で50号を数えます。

これまで、新河岸川流域川づくり連絡会の活動をはじめ、新河岸川流域にまつわるイベントやニュース、国土交通省からのお知らせをお伝えしてきましたが、その間、ずっと「里川」の表紙を飾ってきたのは、新河岸川流域をテーマとする“切り絵”でした。

創刊50号を記念し、歴代の表紙を振り返ってみました。川が見える風景とともに描かれているのは、都会のなかに残る豊かな自然と生き生きした子供たちの姿。ここには、新河岸川の過去、現在が映し出され、来るべき未来の姿を想像させます。



THE SHINGASHI BASIN NEWS

新河岸川流域しんぶん



発行 ●新河岸川流域川づくり連絡会（荒川下流河川事務所 調査課内）
住所 ●東京都北区志茂5-41-1 TEL03-3902-3220 FAX03-3902-2346
発行日 ●2008年（平成20年）1月18日



切り絵 毛利将範



←開いてみてね！

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。まだまだ寒い日が続いていますが、よく晴れた日中は、陽だまりのあたたかさを感じることができる季節ですね。

今号は、里川50号発行記念として、これまでの連絡会の活動をまとめた記事と、表紙の切り絵にスポットを当てた記事を掲載しています。また、流域の活動紹介では、「荒川クリーンエイド2007秋」と「黒目川・秋の川まつり&軽音楽フェスティバル」、「富士見高校パネル展」をレポートします。

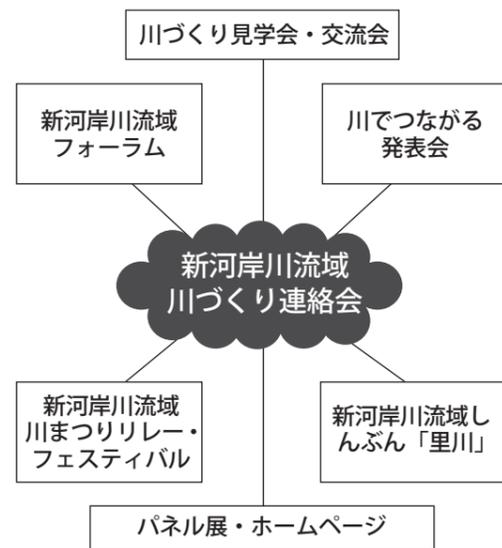
- P2-7 特集：里川50号発行記念
 - ・連絡会を振り返って
 - ・制作者に聞く！
 - ・切り絵ができるまで
 - ・切り絵のモデル地を探せ！！
- P8-9 レポート：流域の活動紹介
- P10 行政からのお知らせ
- P11 流域イベント・インフォメーション

里川の発行元

新河岸川流域川づくり連絡会とは？

「里川」は、新河岸川流域川づくり連絡会（以降、連絡会と称します）が発行しています。ところで連絡会をご存じですか？連絡会のこれまでの活動を振り返りながら、活動内容をご紹介します。皆さんも、お気軽にご参加ください。

連絡会が行っていることは？



新河岸川流域川づくり連絡会とは

新河岸川流域の5つの支川で活動する市民同士の情報交換や市民と行政の情報交換の場として定期的開催しています。

新河岸川流域フォーラムとは

流域住民の方々に総合治水対策や健全な水循環形成について知ってもらうため、関係施設や流域資源の見学や、テーマについてみんなで考える企画などを開催しています。

川づくり見学会・交流会とは

流域住民の方々が川づくりに対する理解を深め、また、より多くの方が川づくりに興味を持ち、参加してもらえるように、流域内外で見学会を開催しています。

川でつながる発表会とは

流域内の学生たちが川、水、環境について日頃の活動成果を発表し、川について様々な世代が交流する場として開催しています。

新河岸川流域川まつりリレー・フェスティバルとは

各支川で毎年夏に行われる川まつりを結びつけ、リレーイベント形式で開催しています。

新河岸川流域しんぶん「里川」とは

“人の生活に関わり深い、身近にある川”を「里川」と呼ぼう、と名づけられました。流域内の川づくりに関する活動報告やイベント情報などを掲載発行しています。

パネル展・ホームページとは 連絡会と総合治水対策などの情報を一般の方へ向けて発信しています。

誰がメンバーなの？

各支川の川づくり団体や一般の方がメンバーです。事務局は国土交通省荒川下流河川事務所調査課にあります。川に興味がある方はどなたでも参加可能です。参加を希望される方は事務局までご連絡ください。
URL <http://www.ara.go.jp/arage/shingashi/index.html>

***** 主な川づくり団体 *****

- 不老川流域川づくり市民の会
- 砂川堀流域川づくり懇談会
- 柳瀬川流域ネットワーク
- 黒目川流域川づくり懇談会
- 白子川と源流の水環境を良くする会

※ この他にも、各地で活動している団体があります。

● 連絡会をさかのぼると ●

1980年(昭和55年)8月、河川と流域のバランスのとれた総合的な治水対策を進めていくため、国、都県、関係市区町からなる新河岸川総合治水対策協議会が発足しました。一方で、「いい川づくり」を市民が考える場として、各支川に川づくり懇談会が発足しました。

その後、1995年(平成7年)の河川審議会答申、1997年(平成9年)の河川法改正の動きを受けて、総合治水対策においても、市民活動と関連づけた展開が望まれることになりました。

これまでの活動を紹介します

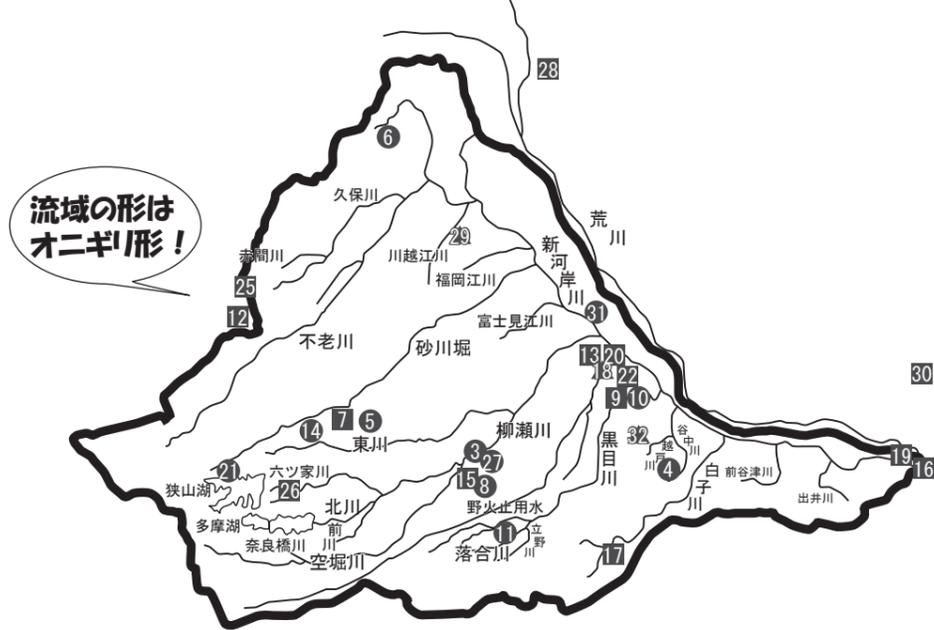
連絡会発足以降、新河岸川流域の各地でさまざまな活動を行ってきました。ここでは主なものをご紹介します。



林川浄化施設 交流会の様子



びん沼調節池



流域の形はオニギリ形！

凡例：● 新河岸川流域フォーラム ■ 川づくり見学会・交流会(学習会含む) ▲ 川でつながる発表会



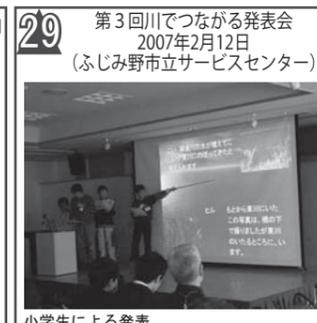
フィールドワーク風景 ワークショップ風景



びくに公園



パネルディスカッションの聴講風景 比良の丘のウォーキング風景



小学生による発表

活動年表

年月	名称(開催場所)
1996.5	①新河岸川フォーラム 「新河岸川流域における川の担う役割」(不明)
1997.5	②新河岸川フォーラム 「これからの新河岸川流域について」～新河岸川流域文化の再発見～(不明)
1998.5	③新河岸川流域まつり 「川を知って、川と友達になろう」(清瀬市金山橋河川敷と調整池周辺広場)
1999.2	④新河岸川フォーラム 「水循環が生きる里川づくりワークショップ」(和光市サンゼリア小ホール)
1999.9	⑤新河岸川流域フェア 「見て・ふれて・考えて 新河岸川流域フェア」(所沢航空記念公園)
2000.2	⑥新河岸川フォーラム 「水循環MAPづくりワークショップ」(本川越ベベホールアトラス)
2000.12	⑦新河岸川流域川づくり学習会 (所沢市生涯学習センター)
2001.2	⑧新河岸川流域フォーラム 「川と流域に学ぶ社会」(清瀬市民センター)
2002.3	⑨新河岸川流域川づくり学習会 「川づくりに関する行政の住民の合意形成」(朝霞市産業文化センター)
2002.5	⑩新河岸川流域フォーラム 「あなたの家は大丈夫！?先人に学ぶ川との付き合い方」(東洋大学朝霞校舎3号館)
2003.9	⑪新河岸川流域フォーラム 「キラリはっけん!わたしたちの川」(東久留米市役所市民プラザ)
2004.4	⑫第1回川づくり見学会・交流会(不老川)
2004.7	⑬第2回川づくり見学会・交流会(柳瀬川)
2004.8	⑭新河岸川流域フォーラム 「砂川旧石器人ストリートウォーキングしよう」(所沢市小手指公民館分館)
2004.10	⑮第3回川づくり見学会・交流会(空堀川)
2005.1	⑯第4回川づくり見学会(荒川下流)
2005.2	⑰第5回川づくり見学会・交流会(白子川)
2005.3	⑱第1回川でつながる発表会 (志木市市民会館)
2005.3	⑲第6回川づくり見学会(荒川下流)
2005.6	⑳第7回川づくり見学会・交流会 (びん沼調節池ほか新河岸川)
2005.8	㉑新河岸川流域フォーラム 「新河岸川から狭山丘陵を考えてみよう」(早稲田大学所沢キャンパス)
2005.10	㉒第8回川づくり見学会・交流会(黒目川)
-	㉓第9回川づくり見学会 (中川・綾瀬川流域、江戸川の川づくり)
2006.2	㉔第2回川でつながる発表会(不明)
2006.7	㉕第10回川づくり見学会・交流会(不老川)
2006.9	㉖第11回川づくり見学会・交流会(狭山丘陵)
2006.10	㉗新河岸川流域フォーラム 「流域のたからもの～緑地の保全について考えてみよう!」(清瀬市中清戸地域市民センター)
2007.1	㉘第12回川づくり見学会・交流会 (三ツ又沼ピオトープ)
2007.2	㉙第3回川でつながる発表会 (ふじみ野市立サービスセンター)
2007.9	㉚第13回川づくり見学会・交流会(旧芝川)
2007.10	㉛新河岸川流域フォーラム 「みんなの流域、みんなで治水!」(志木市市民総合センター)
2008.2	㉜第4回川でつながる発表会 (朝霞市中央公民館・コミュニティセンター)

「里川」表紙の切り絵 制作者に聞く！ 毛利将範さんロングインタビュー

新河岸川流域しんぶん「里川」の創刊より早10年。毎号の表紙を飾ったのは、モノクロームの切り絵でした。ユーモアで親しみのある絵柄で、温かい心が込められた作品たち。制作者の毛利将範さん（NPO法人 エコシティ志木）に、これまでのいきさつや作品づくりに関するお話をうかがいました。

— 切り絵をはじめたきっかけは何ですか？

約20年前になります。わが子の誕生がきっかけです。誕生案内を切り絵で作って見たのですが、書くのは違い、切り取った線の太さによって表情がかわったりするのが面白くて、それから作り始めたんです。

— 20年前に切り絵を始めて、その10年後に里川の表紙制作の制作へ。何がきっかけだったのでしょうか？

当時、流域ごとに川づくり懇談会が始まっていたんですが、どういうきっかけだったかなあ。気づいたら作っていたんです（笑）

— これまでの作品づくりで苦労された点は？

いつも苦労するのは、テーマ設定です。最初は「鳥の図鑑を作ろうかなあ」と思っていて、鳥をテーマに作成をはじめたのですが、どんどんテーマが広がって。魚の調査が始まった頃は魚になり、その後歴史的なテーマにも取り組みました。下絵の段階でしっかりこないと、やり直すこともありますね。

— 作品の制作にはどれくらいの時間がかかるんですか？

切り始めると4時間位です。下絵を描いてほしい1日置くんです。それから2日位に分けて切る。そうするといい絵ができるんです。

— 作品を作っていて楽しいことは？

線の太さを切りながら調整するんですね。ですから切った結果で意外な形ができるのが楽しいですね。

— ところで、歴代の里川で特に気に入りの作品はありますか？

Vol.19の「メダカ」が好きですね。これは子供の頃の情景なんです。メダカは素手でも取れるんですけど、切り絵のように手ぬぐいを使うととってもよく獲れるんですね。

— 心に焼き付いている風景が作品になっているんですね。

スケッチをしてすぐにつくろうとするので、1年、2年と時間をおいて、ふっと思い出した時につくるといい作品ができるような気がします。思い出しながらつくと、ぜんぜん正確ではないけれど、意外とおもしろい形ができたりします。

— 川をみてこられて何か変化はありましたか？

古い作品を見ると、人が川に入っていないでしょう？ Vol.1のころは、水が汚くて、行事でも川に入れなかった時代です。その頃は、「川に入って遊べるといいなあ」といつも思っていました。それが、だんだん川がきれいになってきて、学校の授業などで魚調べが行われたり、最近では釣りやバーベキューなど、大人も子どもも川に親しんでいますね。

— これから先、どんな作品を作っていきたいですか？

「自然」と「子ども」をテーマにしたものを作り続けたいね。もっと思い切ってデフォルメした感じの作品も作ってみたいですね。

— ありがとうございます。お話をうかがって思ったのは、自然の姿を「心で見、心で感じる」ことが大切ということでした。毛利さんのお人柄がそれぞれの作品ににじみ出ているのは、すべて心を通じて描いているからだと思いました。



「メダカ」(vol.19 2003.4.9発行)



「ミズガキ」(vol.17 2002.4.30発行)

切り絵ができるまで

毛利さんに手ほどきを受けて、実際に切り絵を作ってみました。切り絵は一体どのように作られているのかをご紹介します。

●道具を準備



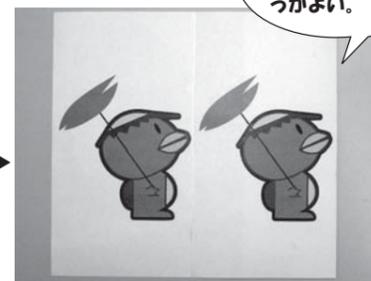
- ①黒い紙（色洗紙やタント紙）
- ②カッター（デザイン用カッター）
- ③カッティングマット
- ④ホチキス
- ⑤コピー用紙
- ⑥鉛筆、サインペン、筆ペンなど
- ⑦ケント紙
- ⑧のり（スプレーのり、スティックのり）

●下絵を描く



記憶やイメージを頼りにコピー用紙に鉛筆やサインペン（筆ペン）を使って太目の線で下絵を描きます。

●準備完了



下絵ができたらコピーをとって同じものを2枚用意します。目を1ヶ所切り離すだけであとは1枚につながっています。

●ホチキスで留める



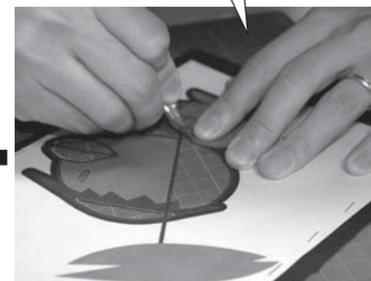
最初の1枚を黒い紙に重ねて、ずれないようにまわりを数ヶ所ホチキス留めます。

●どんどん切る



せっかくなので里川50号を記念する文字を入れてみました。いよいよ完成間近！！

●さらに切る



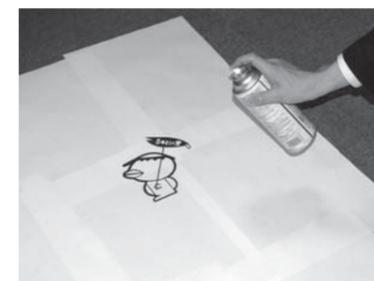
切るときは必ず絵柄の細かい部分から切り進めます。

●切り始め



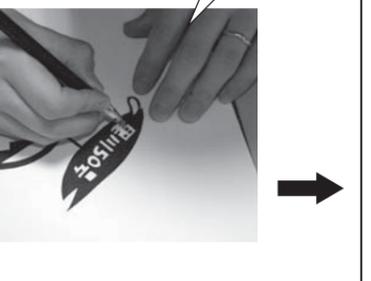
手をよく洗い、呼吸を整えて切り始めます。切る時はカッターの刃を手前へ引くようにします。

●台紙に貼る



切り上がった作品にスプレーのりをして、白い台紙にのりで貼ります。

●完成



できたぁ！！

Vol.11：かっぱ 一河童は生きている一

川沿いをしばらく歩くと川に下りるための大きな階段があります。ここは地震や火事の時に水をくみ上げる場所として整備されています。さらに川に近付いてよく見ると…かっぱ発見！切り絵は子ども達をやさしく見守るかっぱの姿を描いています。



Vol.31：ヒヨドリ 一堤防上の桜並木一

志木市側の堤防上の遊歩道には立派な桜並木が続いています。川向こうには水谷田んぼ（富士見市）が広がり、景色がよいところです。春、多くの野鳥が桜の花の蜜を吸いにやって来ます。切り絵には、自然と生き物がつながる一瞬が描かれています。



Vol.48：てつきょう 一レンガ造りの橋脚一

柳瀬川駅のすぐ脇にある鉄橋です。複線化の際にコンクリート製の橋脚も造られましたが、一部はレンガでできています。このレンガの橋脚は大正時代に鉄道が開通した当時より活躍しています。



Vol.26：シジュウカラ 一大きなクワの木一

柳瀬川駅西口を出てサミットの前を通り柳瀬川の堤防へ出ます。堤防上をしばらく上流へ向かって歩くと、川岸にすっと立つ一本のクワの木があります。上流から流れてきた種が根付いたのでしょか。切り絵には木の実を食べに集まる野鳥の姿が描かれています。



切り絵のモデル地を探せ！！

～ 小さな発見いっぱい 川の見える散歩道を歩いてみませんか～



切り絵のモデル地では、今も素敵な風景に出会えます。各地点の見どころを切り絵作者の毛利さんに教えていただきました。いい天気の日、この地図を片手に、お出かけしませんか？

川沿いのこの場所には地図には書かれていない道があるんですよ。

なぜ市境がこんなに入り組んでいるかというと、河川改修前の川の流れ（旧河道）に沿っているからなんです。



モデル地はどこかなあ？



ここを拡大！

Vol.45：レンガひもん 一古くて大きな水路一

新河岸川に架かるいろは橋を渡ると左手に交番があります。交番を左折し、四小の角の細い道（ハーベストモール）を左に入ります。この辺りはかつて堤防で囲まれていたため、レンガの樋門が、堤防内部にたまった水を排水するための水路として働いていました。



Vol.1：ヒドリガモ 一バードウォッチングの聖地一

冬場になるとヒドリガモの他、オナガガモ、コガモ、カルガモがよく見られる場所です。切り絵は10年前の様子で、当時、300～500羽位のヒドリガモの集団が土手の草を食べていました。現在は栄橋から見下ろせる中州にカモが集まっています。



まだまだあるよ

モデル地の紹介

Vol.42：コナラ



さいたま緑の森博物館 西久保湿地の水田と斜面林（入間市）

Vol.46：わきみず



白子川の湧水と斜面林（和光市）

国土交通省からのお知らせ

○荒川知水資料館 (amoa) ワークショップ

荒川知水資料館(amoa)では荒川に触れることができる機会として年間を通じて様々なワークショップを開催しています。

「尾久の原公園の植物を観察しよう！ ～植物に関するおもしろい話～」

- ・日時：平成20年2月17日(日) 13:30~15:30
※雨天、雪の場合は、2月24日(日)に延期します
- ・受付：尾久の原公園事務所前で13:15より受付開始
- ・場所：尾久の原公園
- ・講師：池田 稔 氏(尾久の原愛好会)
- ・内容：尾久の原公園の植物を観察しながら、草のおもしろい名前や植物が生きるために行っているさまざまな工夫が学べる観察会です。
- ・持ち物：ルーペ(虫メガネ)、筆記用具
※ルーペ(虫メガネ)は当方でも用意をしております。
- ・対象：一般(小学生は保護者同伴)
- ・募集人数：25名(定員に達し次第締切)
- ・費用：無料
- ・申込み：はがき・電話・メール・直接資料館受付のいずれかで、参加者全員の住所・氏名・年齢・電話番号をご連絡ください。

【受付開始】
1月27日(日)

●問合せ先●

〒115-0042
東京都北区志茂5-41-1 荒川知水資料館 ワークショップ事務局
【TEL】03-3598-2134 【HP】<http://www.ara.go.jp/amoa/>
【メール】amoa-ws@ara.go.jp
【受付時間】10:00~16:00(月曜日を除く)(月曜が祝日の場合は火曜休館)

※個人情報の取り扱いについては、個人情報保護法に基づき適正に取り扱います。

埼玉県からのお知らせ

○平成19年度 第14回河川愛護交流会を開催します

埼玉県では、川を活動の場として活躍する団体のみなさんがお互いの交流を深め、活動の場を広げていけるように交流会を開催します。

- ・日時：平成20年1月27日(日) 10:30~16:30
- ・場所：浦和コルソ 7階ホール(浦和駅西口 コルソ内)
- ・内容：全体会(河川愛護団体や行政からの発表・報告)
◆分科会 テーマ1 みんなで川づくり
—地域と行政との連携—
テーマ2 水質改善と浄化槽
テーマ3 川で楽しむ・川から学ぶ

【問合せ先】埼玉県総合治水事務所 荒川水系、利根川水系担当
TEL 048-737-2001 FAX048-737-2193
E-mail: n372001@pref.saitama.lg.jp



全体会の様子



分科会の様子

過去の河川愛護交流会の概要については埼玉県 HP で公開されています。

【URL】<http://www.pref.saitama.lg.jp/A08/BG00/kasen/koumoku/kasen15.html#lnk1>

● Information イベントカレンダー

■ こどもとおとなの自然塾～冬の渡り鳥を見てみよう～

- ・日時：2月2日(土) 9:00~11:00頃(雨天中止)
- ・集合場所：東上線「柳瀬川駅」前 サミット前広場
- ・内容：冬に志木へ来る渡り鳥を観察します。
- ・参加費：200円(会員100円、中学生以下は無料)
※ 家族参加は家族全員で1名扱い
- ・持物：筆記用具、寒さ対策、あれば双眼鏡
- ・主催：NPO法人エコシティ志木
(財)埼玉県生態系保護協会志木支部
- ・後援：志木市立教育サービスセンター
- ・申込み&お問い合わせ：048-471-2211
(志木市立教育サービスセンター)



■ 淵の森「早春の下草刈りと散歩道整備」

- ・日時：2月3日(日) 9:00~11:00頃
- ・場所：淵の森(直接お越しください)
- ・参加費：200円(保険・通信費として)
- ・持物：作業できる服装・手袋、水筒 等
- ・主催：淵の森保全連絡協議会
- ・申込み：不要
- ・お問い合わせ：04-2944-2633
(淵の森保全連絡協議会 事務局長 安田敏男)



事務局便り

川づくり連絡会に参加してみませんか？



川づくり連絡会の様子

原則第2火曜日に新河岸川流域川づくり連絡会を開催しています。参加希望の方は、右記事務局までお問い合わせください。
(開催場所はお問い合わせ時にお知らせします。)

しんぶん「里川」掲載情報を大募集します！

各流域や地域での活動報告やイベント情報を募集しています。身近な情報などをお手紙または FAX・メールにて事務局までお寄せ下さい。

■ 連絡先

〒115-0042 東京都北区志茂5-41-1
新河岸川流域川づくり連絡会 事務局
(国土交通省関東地方整備局 荒川下流河川事務所 調査課内)
TEL 03-3902-3220 FAX 03-3902-2346
URL <http://www.ara.go.jp/arage/shingashi/>
E-mail shingashi@ara.go.jp